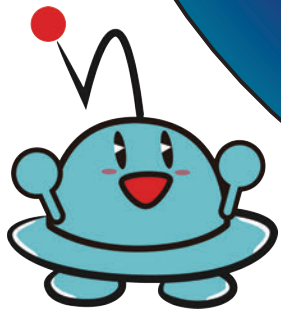
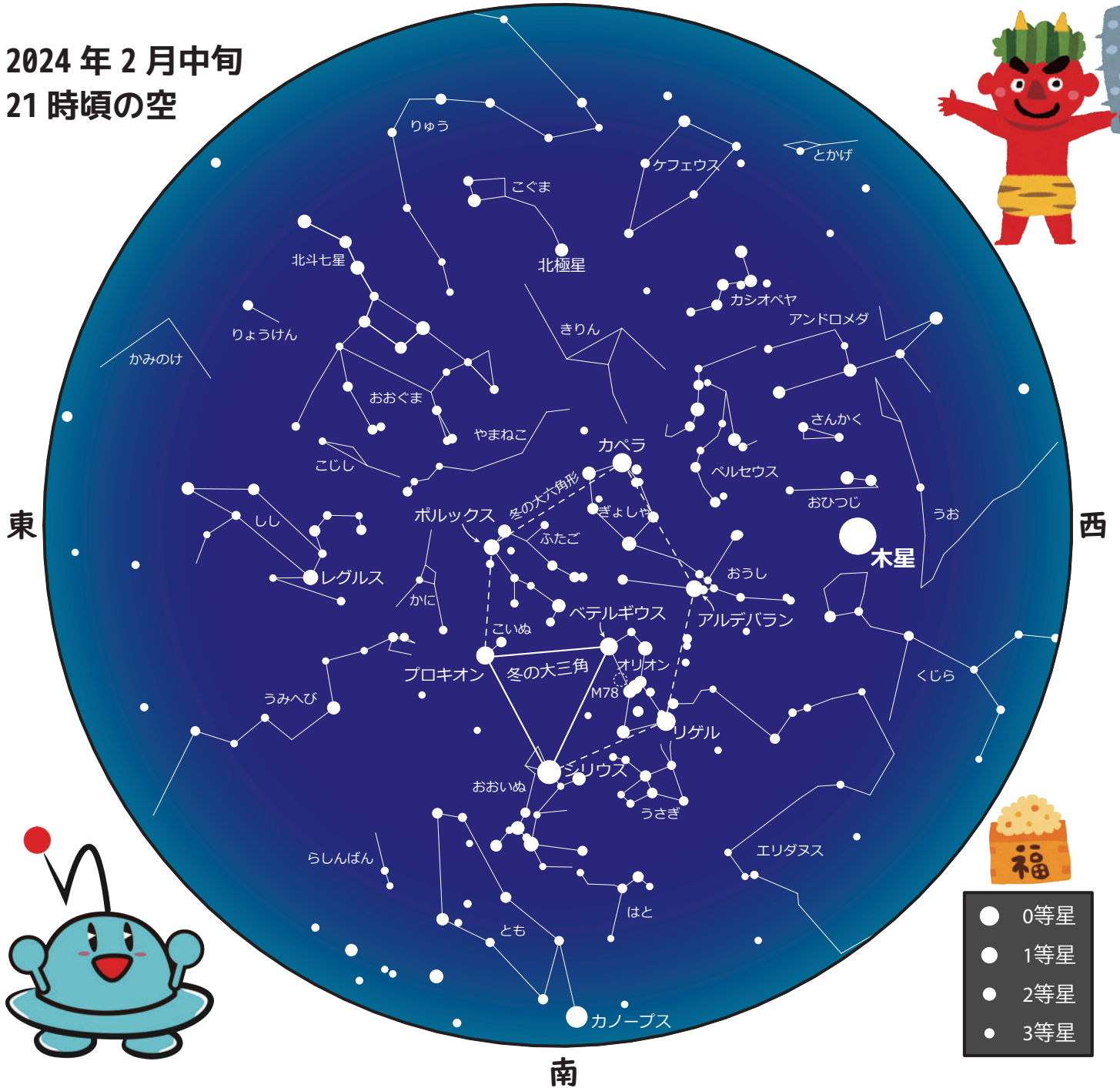


阿南市科学センター

2月の星空案内

北

2024年2月中旬
21時頃の空



2月は小学4年の理科で学習する冬の星や星座を見つけるにはうってつけのシーズンです。夜9時ごろ南の空を見上げれば、まずオリオン座の姿が目につくことでしょう。オリオン座には二つの明るく目立つ星があり、赤い色をしたベテルギウスと、青白い色をしたリゲルという星が見つかります。このうちベテルギウスと、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオンを繋げば綺麗な逆三角形ができあがり、これを冬の三大角と言います。ちなみにシリウスは夜間全天で最も明るい恒星で、その輝きは1等星の約10倍もの明るさで見えます。古代エジプトではシリウスが1年のはじまりを告げる星として重要視され、そのことが現在我々が利用しているカレンダー（太陽暦）の起源になったとも考えられています。

臨時休館は2月中旬終了予定。天体観望会は17日（土）より再開します！詳細はHPをご覧ください。

阿南市科学センター

電話 0884-42-1600

<http://ananscience.jp/science/>

2月の月の満ち欠けと惑星について



下弦
3日



新月
10日



上弦
17日



満月
24日

天体観望会で 月が見えるおすすめ日時は？



2/17(土): 19時、20時の回で観察



2/24(土): 20時の回で観察可能

水星：太陽に近く観察は難しい（2/27 外合）。

金星：夜明け前、南東よりのごく低空で見える【約 -3.9 等】

火星：夜明け前、南東よりのごく低空にあるが観察は困難【1.3 等】

木星：日没後、南西よりの空で見える【約 -2.3 等】

土星：上旬、日没後に西のごく低空で見えるがすぐに沈む【約 1.0 等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさ。

2月24日はちょうど満月の日です。このとき、月は地球から約40.6万km離れたところ



図1 最小・最大の満月の比較

ろに位置し、2024年内では最遠（最小）の満月となります。逆に年内最大の満月は10月17日です。このとき距離は約35.7万kmとなります。

今月のおすすめ天体

【シリウス B は見えるかな？】

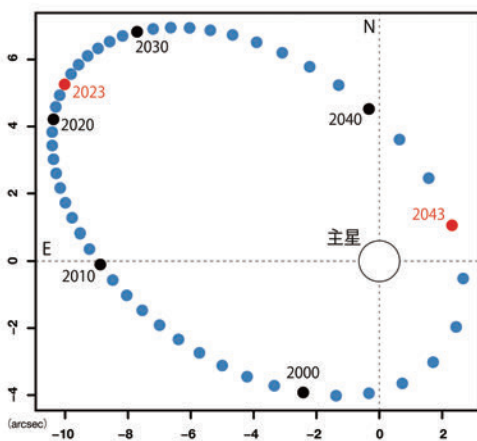
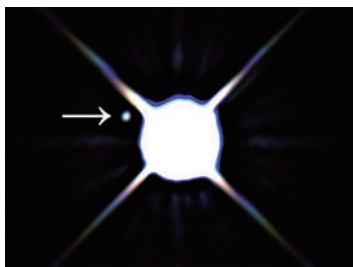


図2：
【上】キャンペーン「シリウス B チャレンジ」公式HPへ。
【左】シリウス B の軌道。
【下】四国最大の望遠鏡で撮影したシリウス B の姿。

夜間全天で最も明るい星“シリウス”を望遠鏡で観察してみると、そのまばゆい輝きのすぐそばに、ときおり**シリウス B**と呼ばれる暗い星（伴星）の存在を見つけることができます。シリウス



スは連星系を成しており、互いの周囲を約50年で一周します。2021年～2024年は約50年ぶりにシリウス B が主星から最も離れた状態で、観察の好機となっています。しかしその観察は容易ではなく、望遠鏡の性能や特に大気の状態に大きく左右されます。

ちなみに現在、シリウス B が見えるかどうかチャレンジしてみよう、という趣旨で全国キャンペーンが展開されています。当館の天体観望会でもシリウス B の観察にチャレンジしているので、ご興味があれば是非遊びにいらしてください！

イチオシ天体写真

【ウルトラマンの故郷？ M78 星雲】

M78 星雲といえば、特撮に出てくるウルトラマンの故郷として記憶している方もいるのではないのでしょうか。もともと企画の段階では M87 という銀河からやってきたという設定だったようですが、脚本になるさい誤植で M78 になってしまったとされています。

ところで、M78 はオリオン座に位置する実在する星雲です。星雲の中でも「反射星雲」に分類され、星雲の中央部で輝く高温の星の光を反射して光っています。M78 は 1780 年にフランスの天文学者ピエール・メシアンによって発見されました。彼はかの有名な天体カタログ「メシエ・カタログ」の増補に大きく貢献し、M1～M110 のうち 20 数天体は（M78 も含め）メシアンによる発見です。



図3：オリオン座で輝く M78 星雲の姿（撮影：K.Imamura）。

※この写真は一般財団法人全国科学博物館振興財団の支援を受け撮影しています。